教育・研究等業績一覧

					B							
				履		胚						
フリガラ	ナ	オオ	ミチ	マサユ	+		性別					
氏	名	大	道	雅之	_		男	生年	1954年			
所	属	農学ビジネス学科					身 分	教授				
	月	事 項										
1972年3月		神戸市立葺合高等学校卒業										
1977年3月		高知大学農学部農業工学科農業機械コース卒業										
				U∳l								
				職		胚						
年	月				事		項					
1978年4月		北海道上川支庁旭	川地区農業改	[良普及所(農業]	收良普及員)							
1985 年 4 月		休職 (青年海外協力隊参加 60年1次隊 ホンジュラス 野菜)										
1987年9月		北海道上川支庁旭	川地区農業改	(良普及センター	(専門普及員)							
1992年4月		北海道石狩支庁石	 守南部地区農	業改良普及センタ	ター他2普及セ	こン	ター					
2001年4月		北海道空知支庁空	知南西部地区	農業改良普及セン	/ター(地域第	有一	係長)					
2002年4月		北海道立上川農業	試験場技術普	及部(主任専門技	支術員)							
2003年7,8月	1	JICA 派遣(エルサ				門家	₹)(現職》	永遣 42 日間])			
2005年4月		北海道立花・野菜	技術センター	· (主任専門技術員	員)							
2006年4月		北海道檜山支庁檜										
2007年4月		拓殖大学北海道短期大学 環境農学科 教授 現在に至る										
				10 <u>-</u> L	. sile	,_						
				教 育	業	績						
1 担当授	業和	4目(2015 年度)									
	科	目 名		出講場所	期別		曜日	時阻	·			
農業基礎実験	・実	 꿤		拓大ほ場、実習	棟 通年		火/木	4, 5/4,	5			
1年ゼミナール				演習室1	通年		水	3				
2年ゼミナール	レ			演習室 1	通年		水	4				
キャリアスキル				201 教室	通年		月	1				
農業機械学				202 教室	前期	,	火	1				
野菜生産学			103 教室	前期		金	3					
野菜実習			拓大ほ場、実習	棟 通年		金	1, 2					
農業機械研修			農大	前後期		随時		事前研修 4 回				
卒論演習			研究室,実習棟	通年		随時						
キャリア技能			実習棟	通年		土、日、祝	□ 1~5	委託、事前研修 4 回				

2 現行授業の目標と教育 効果及びそれに対する 自己評価 (記述式:900字以内) 3 学生による授業評価も 踏まえ、教育改善への 取り組み (記述式:900字以内)	作物栽培の基本と実践力を身につけ、高収益栽培法について理解するとともにその栽培技術が習得でき、生産と流通、消費についての理解が深まることで、科学的に物事を思考し判断する能力と実行・実践する技術力が備わることを目標にしている。授業の中で、その基礎を学び、自らが考え行動し応用力を培うことが将来へつながる道である。そのためには何事に対しても「何故」という疑問を持ち、問題点を探り当て、解決方法を実行に移すことが必要である。農業基礎実習では、作物を観察する目を磨き、作物を育てることの喜びと失敗した苦労を体験し、収穫の際の満足感をとおし農業のすばらしさを伝えていく方針で進めている。座学では、実践に必要な知識・技術につて系統的に習得し、自ら考えることができる能力がみにつくよう努めている。また、野菜実習では、北海道での最新の野菜栽培技術をとおして野菜栽培の楽しさを知るとともに、実践的野菜管理方法について学ぶことを考慮している。学生が、初めて自分で種をまき、作物にふれ、収穫の喜びを体験し、レポート作成をとおして成長していると確信している。講義については、興味がわくように配布プリントや板書に工夫を凝らし、ppt 等も使用した。また、科目によっては小テストを実施し、知識習得の再確認を行っている。野菜実習の班分けについても興味のある作物を中心に学生に分担させ、自主的・積極的に作業できるように工夫し、市場視察や試験場視察などを取り入れている。また、北海道では見られない作物などをわかりやすく取り入れて、さらに興味を引く講義・実習にしていきたい。							
況 (記述式:300字以内)	表方式をとり目的、内容、結果の周知を行った。							
5 学生の指導(課外活	バトミントン部顧問 深川市民大会など学外3回参加							
動・厚生補導等)	果樹研究会顧問深川果樹園視察、講習会への参加							
	海外研修希望者支援帰国者報告会、各農業交流協会説明会の開催							
(主要 10 件以内)								
6 その他								
(主要5件以内)								
(1)								
	研 究 業 績							
1 研究分野・活動	・トマト、パプリカの高設養液栽培(楽々ベンチ)における栽培法の検討。							
	・サツマイモ、ラッカセイの道北での栽培法の検討。 ・アスパラガス露地栽培の品種の検討。							
(記述式:350字以内)	・ナスハラカス路地秋岩の前種の検討。 ・ホウレンソウの湛液式養液栽培の養液温度に関する検討。							
	・北海道育種メロンの安定生産技術の検討。							
	・北空知地域に適したカボチャ栽培法の検討							
	・四季成りイチゴの収量と養分吸収量の検討							
2 研究課題	・パプリカの整枝法の検討。 ・サツマイモの品質向上栽培法並びに北海道にあった品種の検討及び自然交配種の作出。							
(今後の展開・可能性を含む)	・エゴマ栽培法の検討。							
(司法士 250 壹以去)	・キヌアの品種の検討。							
(記述式:350字以内)	・ラッカセイの安定生産技術の開発検討 ・イチゴ養液栽培における葉面積と収量についての検討。							
	・イケコ食飲料店における果面積と収重についての検討。 ・道北におけるリーキの安定生産技術の検討							
0. 加索吐金粉								
3 研究助成等 (主要 5 件程度)	(1) 文部科学省科学研究費							
(工女3) 竹饪皮/								
	(2)学内							
	(3)学外							

4 資格·特	北海道農業改良普及員資格										
(主要3件以	専門技術員資格(野菜及びいも類)										
	技術士(農業部門)										
著書、学術論: (主要 15 件以	S 称	単著、 共著 の別	発行年月	テ又は発表の]	発行又は発表 雑誌等又は発表 学会等の名称				要	約	
植え付け方法がサ る影響	こ与え	共	2015	年3月	北海道園芸研究談話会報 48号						
カリ過剰圃場によ イモの塊根に与え		ナツマ	共	2015	年3月	北海道園芸研究談話会報 48号					
ポット栽培におけ マイモの生育・塊		バサツ	共	2015	年3月	北海道園芸研究談話会報 48号					
湛液栽培における ウの生育に与える		/ンソ 	共	2015	年3月	北海道園芸研究談話会報 48号					
道北におけるリー	道北におけるリーキ栽培と糖度				年3月	北海道園芸研究談話会報48号					
光照射技術による	助果	共	2015	年 3 月	北海道園芸研究談話会報48号						
道北におけるラッ 露地栽培における		種の	共	2015	年3月	北海道園芸研究 48号	北海道園芸研究談話会報 48号				
路地秋塔にわける 収量性評価および 影響				北海道園芸研究談話会報 49号							
	研究業績((過去3カ年分)					社会的活動の				
著作数	論文数		学会等 発表数		その他	の有無	の有無		無	_	
4	1 2		1 2			有			声		
1 役職、各種(主要 10 件程	・地場	域・国際			字 業 積 深川国際交	泛流協	会都の	連携、杉	6大海外研修	をへの学生派遣支援	
				È	学 外 活 重						
1 本学以外(の機関(公的	子 パ									
	別候気(ム的)間団体等)を	NPO 北海道インターナショナル協議会 理事 JICA 青年研修受け入れ、JICA 各種事業への参画									
通しての		北海道養液栽培研究会 運営委員 現地研修会、冬季講座の開催									
	北海道さつまいも懇話会 会長 現地研修会、情報交換会の開催										
(主要 10 件程	北海道型施設園芸高度化協議会副会長 北海道型施設園芸高度化モデルの提言										
		北海道試験会議 北空知農業後継者育成支援協議会 総会、北育ち元気塾の開									
		北至万	11. エハロ 水木 区配行 日 ルス は 一 の成立								
2 学会・学	農業食糧工学会										
動	北海道農業普及学会										
/ -> == 10 / 10	園芸学会 日本技術中企业流送支頭										
(主要 10 件程	日本技術士会北海道支部 北海道果樹懇話会										
	北海道園芸研究談話会										